

テロ対策のための研究開発における当面の課題

科学技術連携施策群「テロ対策のための研究開発（現場探知システムの実現）」タスクフォースにおけるこれまでの検討において、標記研究開発に係る当面の主な課題は以下のとおり。

1 テロの未然防止

(1) 社会的要請

- 大量輸送機関における爆発物等危険物の持ち込みを迅速にチェック可能な探知技術の確立
- 新型の手製爆弾や爆薬の材料を交通機関等に持ち込まないようにするための探知技術の確立

(2) 今後の課題

- ウォークスルー型の探知機器の開発など、高速かつ低誤報率の探知機器の開発が必要である。
- NQR（ラジオ波）を利用した探知機器の開発など、固体や液体物質を個別に判定可能な探知機器の開発が必要である。

2 テロ発生時の被害抑制

(1) 社会的要請

大量集客施設、地下鉄駅などにおける化学剤や生物剤を用いたテロの発生時に、被害を最小限にするための早期探知技術の確立

(2) 今後の課題

化学剤や生物剤を早期に検知するためのモニタリングシステムの開発とともに、空調、避難誘導システムなどが一体となった被害を最小限に抑えるためのシステムの開発が必要である。

3 効率的な研究開発のための国際協力の推進

海外先進諸国との研究開発協力体制の構築（機微な情報の交換を含む）